

環境審議会（平成26年度第1回）顛末

日 時 平成26年8月21日（木）13時30分～15時30分

場 所 市役所第3会議室

出席者 委員：辻 宣行、有澤 浩、家次敬介、高橋穰二、市村英規、石川 芳、白木泰伸
山岸暁雄、今福百合子、横井弘道、岩田俊二、坂口道郎、高崎節子
西野成紀、田中泰文、南部栄一

（欠席委員）芝野博文、天白利幸

事務局：市民環境課長 関根嘉津幸、環境係長 小笠原竹伸、環境係 加門賢裕

1．開会（進行：関根）

2．辞令交付

3．市長挨拶（若杉総務部長）

4．正副会長選任

- ・委員長、副委員長の選出方法について意見がなければ事務局案を提案することです承
- ・委員長には高橋委員、副委員長には家次委員を推薦。
- ・事務局案を各委員に諮り、承認される。

5．議事（議長：高橋委員）

（1）環境基本計画の進行管理について

事務局（加門）より、配布資料1 環境白書について説明

高橋委員

事務局より一括して説明がありました。それぞれ項目ごとに審議していきたいと思えます。まず、前段の部分について前回明記するか否かの議論がありましたが、いかがですか。

辻委員

それぞれ、数値目標が設定されているが、設定根拠の説明が前段にあるといいのではないかな。

高橋委員

計画策定段階で目標値の設定方法について決めた経過があり、計画には根拠が示されていると思うが事務局どうですか。

事務局（小笠原）

計画策定時点、担当部局に施策実現のため、かつ住民にわかりやすい指標として設定している。その説明について根拠を表せる範囲で表示できるように検討したいと思うが、なるべく簡潔にしたいという気持ちとわかりやすくという気持ちがあるので、整理して次回までに検討します。

辻委員

重要な数値だと思うので、根拠なく目標を設定しているのではないということがわかるようにした方がいいと思う。

南部委員

前回も同じような説明だった。目標値をずっと達成できていなく、あまりにもかけ離れているので議論のしようがないのではないか。

高橋委員

平成 32 年度までの計画となっている。来年あたりがちょうど中間年になるかと思う。その時には、目標値などの細かい議論も必要になってくるかと思う。白書はあくまで経過報告としての意味もあるかと思うので、それまではあまり重たくなならないような形で見ていただきたい。

水環境の保全について

家次委員

平成 25 年度の具体的な取り組みで「河川整備を近自然工法により実施」とあるが、この川を実施して、どのような効果があったのかというのはわかりますか。

事務局（加門）

把握していませんので、担当課に確認します。

南部委員

BOD について時期や天候によって、全く異なる。これだけだとわかる人がみると何の調査だという風を感じる。

事務局（小笠原）

毎年同じような条件で調査し、経年変化でわかるようにしている。あとは、白書にどこまで表示するかの問題かと思います。

南部委員

白書にどんな条件で調査したのかなど明記した方がいいのではないか。

高橋委員

白書にどこまで記載できるのかという問題もあるかと思うので、検討して記載できるところは記載してもらおうようにお願いします。

2 年に 1 回測定しているが、結果の考察についてはあるのか。

事務局（小笠原）

経年の考察については出来ていない状況。確認やデータを蓄積している状況。現在数値については健全な状況なので、汚濁等の状態になった時にデータが生きてくると思います。

持続可能な農地の保全と活用

有澤委員

耕作放棄地の状況について、かなり目につく印象がある。話題にすべきだと感じている。

高橋委員

昨年の審議会でも話があったと思う。また、魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成に耕作放棄地の面積について記載がある。中身については、農業サイドが担当だと思うが、事務局なにかありますか。

事務局（加門）

数値の把握はしているが、対応等については農業委員会と連携して把握に努めていきたいと思います。

白木委員

実際はもっと耕作放棄地はあると思う。28haの根拠はどこから来ているのか。

事務局（加門）

農業委員会からの数値です。

白木委員

それが、どの基準の数値なのか。もっと詳しく調べないと、実際にはもっとあると思う。うちも民有林なども把握している。農業委員会にも木を植えるように指導しているが、なかなか進まない。他の地域は農用地の変更も早く進むが、富良野市は動きが悪い。

南部委員

そういう意味では農業委員にも入ってもらった方がいいのではないか。

事務局（事務局）

今回の環境審議会で出された意見については、農業委員会も交えた庁内の担当部局と協議していきたいと考えています。

白木委員

事務局から農業委員会に数字の根拠を聞いた方がいい。

家次委員

できれば、改善した内容も知りたい。

森林の保全と育成

高橋委員

事務局より説明もあったが、市民アンケートの結果が平成22年度のが記載されているが、次回の予定はいつごろですか。

事務局（加門）

企画振興課で実施している、市民意識調査のアンケートがあるので、そちらを利用して次回の白書には、反映できるかと思います。

野生動物との共生と保護活動

南部委員

「共生」とはどのようなことをイメージしているのか。

事務局（小笠原）

個人的なイメージもあるが、棲み分けも共生の一つと思う。その他、対策についても担当部局の動きも期待しながら、審議会でも意見をいただきながらいい方向に向けていければと思います。

南部委員

毎年ある東大演習林の神社山の見学会に市民の割合が少ない。関心がないように感じる。

観光と環境と言っているが、アピール不足なのではないか。被害を防ぐ方法はたくさんあるが、守るという点が見えない。

有澤委員

共生というのは、無駄な殺生をしないということだと思う。

また、野生鳥獣による被害面積が30haぐらいしか減っていない。大規模な鹿柵を作っ
てその程度しか減っていないのは、どこかに落ち度があるのではないかと感じてしまう。

辻委員

先ほど 水環境の保全で意見があった、河川整備を近自然工法により実施は、ここに記
載した方がいいと思う。近自然工法は、生物多様性を高めるためだと思う。これをしたか
らといってBODの改善にはならないと思う。

ごみの減量化・リサイクル対策の継続的な推進

家次委員

目標を達成するための方法を、白書などにも記載してはどうか。

高橋委員

年々微増傾向にあり、具体的な取り組みについても減量の取組みが掲載されていない。

事務局（小笠原）

何もしていないわけではないので、具体的な取り組みを掲載すべきだと思います。説明
にもあったが、この数値は全国全道平均から見て、非常に低い数値だと認識している。

そこから10%の削減目標というのは、非常に高いハードルを設定していると思ってい
ます。しかし、取り組みにつなげていく為に、各種イベントで具体的な取り組みの一つと
して、食べ残しをなくすなどにより、排出量は減ると思います。

生ごみは重量があるので、一人当たりの排出量が下がるかと思いますが、簡単なこと
ではないので難しいかと思えます。そういう取組みもありますという周知することで目標に
近づけるのではないかと考えますので、示せる範囲で示していきたいと思えます。

南部委員

グラフに全国平均等を明記してはどうか。

富良野市の排出量は微増だが、その分析結果を伝えていただかないと、次の目標設定な
どができない。レジ袋削減など色々と取り組んでいるのに、微増という結果だと、全然守
らない人がいるんじゃないかなど、推測されるのではないか。

グラフの作り方も直した方がいい。

事務局

分析も含めて、微増の原因も調べてたいと思うが、色々と要因もあるかと思うのでやれる
範囲で進めていきたいと思えます。

高橋委員

昨年は、人口減少だが、世帯数は増えているのが原因の一つではないのかという意見も
あった。全国全道平均も入れることで、よりわかりやすいと思えます。

10%の削減目標があるので、微増で済んでいるという見方もあるのではないかと思う。

魅力ある森林・農村景観の保全と都市景観の形成

南部委員

人口が減っているのに、目標値が高いというのはどうなのか。人口減も見据えた数値設定しなければいけないのではないか。

高橋委員

計画策定時には、それも考慮して設定していたはずです。

坂口委員

これは、町内会の参加団体を見据えているのですか。

事務局（小笠原）

これは、町内会の数字です。多くの町内会に取り組んでいただきたいと考えているので周知していきたいと思います。

坂口委員

町内会も高齢化しているし、団体数も統廃合で減っている。

事務局（小笠原）

春秋の累計ですが、ほとんど春に行っている。秋にも春と同程度行っていただければ、数値目標は達成できると思うが、町内会の都合などもあり難しいと思います。数値設定についても考えていかなければいけないと考えます。

南部委員

緑豊かな都市景観というのはどういうイメージなのか。むしろ減っている状況なのではないか。

事務局（小笠原）

街路樹に対しても色々な考えがあります。地域要望も含めて進めていかなければいけないと思います。

高橋委員

計画策定時に市内を見て回った時に、意外と市街地に緑がないと感じた。しかし、周辺に住んでいる方にとっては落ち葉の問題などがあると思います。

良好な大気環境の維持

- 特に意見なし -

騒音・振動及び悪臭の防止

南部委員

苦情処理件数が0件だが、苦情窓口をアピール不足なのではないか。

事務局（小笠原）

平成25年度は0件であったが、今年度に数件問合せがあります。市に騒音振動の苦情があった場合については、全て環境係に連絡がきます。

数年前にトラックの振動で問合せはあったが、富良野市は比較的少ない状況です。

南部委員

広報等で相談窓口の周知をしてはどうか。

事務局（小笠原）

広聴広報係と連携として検討したいと思います。

山岸委員

バリアフリー化事業、道路改良舗装事業で大気環境と騒音振動の改善にどうかかわるのか。バリアフリー化は一般的に高齢者に対する事業だと思う。

事務局

計画の中の自動車利用を控えて自転車利用に転換しようというところに関わってきます。「歩行者や自転車利用者が安心して通行できるまちづくりを計画的に推進する。」というところで、温暖化防止や自動車騒音のところに関わってきます。

地球温暖化対策等の推進と実践

辻委員

この排出量は富良野市全体の排出量ですか。ここの表示は一人あたりの排出量にした方がいいかと思う。この数値は人口が大きくなってくるので、人口減少の推計と合わせていったほうがいいと思う。

事務局（小笠原）

その方がわかりやすいと思いますが、ここまでこの表示で公表しているのでタイミングをみて変更を検討します。

資源・エネルギーの有効活用と実践

- 特に意見なし -

市民、事業者、市の協働による自主的な活動の推進

南部委員

市民環境会議の業務が、環境系の仕事になっている。会員数を増やすより、続けていくかどうかを検討したほうがいい。

幅広い世代への環境教育・環境学習の推進

高橋委員

環境学習は、ふらの自然塾でしか行っていないのですか。

事務局（小笠原）

計画策定時に、当時の校長会代表の委員と意見交換の中で、市内5年生は自然塾の環境学習を行っているということで、順番に環境学習に参加しているということで一例として目標に設定しています。現在、小水力発電施設を環境学習の場として利用している学校もあります。実際には色々な取り組みがあるなかで一例として表示しています。

環境情報の共有化

- 特に意見なし -

(2) その他

高橋委員

中間年度の見直しはいつになりますか。

事務局（小笠原）

進捗状況を確認しながら、適宜修正をしていく計画になっています。指標及び施策に意見をいただきながら、施策の転換に関する意見もいただいきたいと考えています。

辻委員

観光と環境がリンクした施策をもってアピールしてはどうか。200 万人が観光客としてくるので、クリーンな環境が重要な観光資源だと思う。

市村委員

今後、目標達成にむけて「何をする」のかを討論していったらどうか。

高橋委員

アクションプランの検討も必要だと思います。事務局と相談していきたいと思います。

6 . 閉会